

## 国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（令和5年度第1回）

開催日	令和5年6月16日（金）
場所	百周年中村記念館特別会議室、オンライン
出席者	【対面】麻生委員、鶴飼委員、大庭委員、小笠原委員、久保田委員、高原委員、前田委員、宮武委員（五十音順）、 学長、理事（教育接続・連携PF担当）、理事（研究・社会連携担当）、理事（総務・経営改革担当）、 理事（ダイバーシティ&インクルージョン担当）、工学研究院長、情報工学研究院長、教養教育院長 【オンライン】有松委員、井上委員（五十音順）、生命体工学研究科長
列席者	近藤監事、林田監事
会議成立	構成員20名のところ、19名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

議題	NO	議題	結果	主な意見
議題1	(審議事項)	令和4年度決算について	原案のとおり承認	<p>○国立大学における利益とは。企業のように収益を増やすことを目指すのか、持続可能を目指すのか。（学外委員） →大学の財務は運営費交付金及び授業料収入を基本とし、外部資金により内部の活動を上げていくという考え方。また、間接経費の比率及び額の増加や講習等による外部収入の獲得により、運営資金を確保し、研究以外の部分の活性化に繋がられるようになってきた。（学内委員） ○外部収入等により総収入が増えた時に、報酬面で学内者に対するフィードバックはあるのか。（学外委員） →外部資金に係る間接経費について一定割合を給与の一部として当事者に還元する制度を導入している。（学内委員） ※役員会に付議し6月末までに文部科学省に提出する。</p>
議題2	(審議事項)	国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等について	原案を一部修正の上、承認	<p>○補充原則1-2④において、「第4期」を「本期」、「2023年度」を「本年度」と表記すると、毎年度の更新は不要となる。本報告書の相手方のこと等を考えると、修正した方が良いように思われる。（学外委員） →修正を検討させていただく。（学内委員） ※役員会に付議する際に委員の意見を反映した内容に修正する。</p>
議題3	(報告事項)	自己点検・評価結果の公表について		<p>○第3期から内部質保証を重点的にみられるようになったが、大学独自の項目を設けて評価するという考え方か。（学外委員） →項目自体は認証評価と変わらないが、より明確な判定基準を大学が設定する形としている。（学内委員） →教育の質を担保することに繋がられていると考えている。（学内委員） →JABEE認定に関し、工数が多く教育職員にとって負担となっている面があるため、このような活動も含め並行して全体効率化を進めていきたいと考えている。（学内委員）</p> <p>○自己点検結果についてHP上に公開する内容は、本会議資料のような形を想定しているか。また、どのような人に対して公表することの意味合いを持たせているのか。（学外委員） →自己点検・評価は法令によって活動及び報告が義務付けられており、また、税金を使って活動している国立大学法人としての責任を社会に対して公表するものと考えている。（学内委員） →文科省等への報告ではなく、国立大学法人としての社会に対する公表ということであれば、少し書きぶりを工夫した方がいいのではないかと。（学外委員） →会議資料においては手続的に必要な内容としているが、社会に対する公表内容の書きぶり等は課題と認識しており、検討する。（学外委員）</p> <p>○実施したこととその結果質がどう改善したのかについてあまり関連が見えない。何を実施していて、その質向上のためにどのような取組みをしたということを示し、九工大の特色を出してほしい。（学外委員） ○学内用の資料を参照すればなぜ「○」になったかがわかるが、公表資料では「○」の意味が伝わらないのではないかと懸念されるので、今後の公表内容を検討いただきたい。（学外委員） →まずは公表することに重点を置き最低限の内容としているが、今後、他大学の公表内容等も踏まえ、九工大としての特色を出せるよう記載内容や書きぶりを検討していきたい。（学内委員）</p> <p>○手段としての自己点検・評価を実施したことによるプラス要因や、九工大の中での重要な項目がわかるような情報を示してもらえると、より有意義なコメントができると思う。（学外委員）</p> <p>○内部では深い議論をされているものと思われるが、特にこの項目については議論をした、課題になった、などの情報があれば、経営協議会の場でも更に有用な意見が出せるのでは。（学外委員）</p> <p>○実施しているかいないかは○×でわかるが、評価の理由が○×だけではわからない。初年度は設置した点検項目の公表に留め、指標を含めて判定結果は今後公表するというような選択肢はないのか。（学外委員） →内部的には○×評価のみではなく詳細に点検しているので、その部分をどのような形で、またどのような人を対象に公表するか今後検討したい。（学内委員）</p>

議題	NO	議題	結果	主な意見
議題4	(報告事項)	地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業の採択について		○今回の施設整備事業に採択された30大学に地域中核・特色ある研究大学強化促進事業の予算が配分されるのか。(学外委員) →地域中核・特色ある研究大学強化促進事業は別途公募されるものであり、本学も採択を目指す予定としている。(学内委員)
議題5	(報告事項)	経営協議会学外委員の意見を活用した法人運営の主な改善事例について		
議題6	(報告事項)	学長方針の遂行状況の報告		学外委員からのコメントは別紙のとおり

## 議題6 学長方針の遂行状況の報告についての主な意見

各委員（外部委員）からの意見、意見交換は以下の通り

- エネルギッシュで具体性のあるビジョン、ロマン、パッションがあり期待している。そのビジョン等を実現していくスタッフの盛り上がりが重要。KPI が少ない面がある。飯塚からバックアップしていきたい。
- 盛りだくさんで、エネルギッシュで前向きな報告であった。  
他大学ではあまりないであろう全体最適化を目指した本部制に期待している。Teams 電話など ICT 系の活用や、育休産休時の人事配置など組織面の取り組みなど働き方改革への作用も含めて、今後本部制の成果をご報告いただきたい。  
女子学生比率が増加し、成果が目に見えて現れている。男女問わず工業系人材への魅力の発信をしながら、学生募集活動の中で女子の希望をすくい取り、多くの意欲的な女子学生の入学に繋げてほしい。
- 1年間でこれだけのことを進行していることに敬意を表する。  
外向きにも目を引くようなことに特化していくのも一つの方法と考える。衛星や ChatGPT 等の目立つ話題に対し、九工大がどのように取り組もうとしているかを高校生、特に女子学生に対して魅力的に映るように発信してもらいたい。地元志向が強いであろうと考えられる女性学生への働きかけにより九州に残る学生を増加させることも大学の一つの役割と考える。  
九工大が北九州にあるユニークな大学として発展していくことを期待している。
- 学長のビジョンと具体的なアクションプランを上手く中期目標・中期計画に合わせこんでいる素晴らしい計画だと感じた。在任中に国の方針が変わることもあるかと思われるが、非常に強固な体制で臨まれると思うので、実現していただきたい。
- 精力的に動かれていることがよく理解できた。女性が増えてきたことはとても良い。ハラスメントの窓口にまで届かないような小さな芽のうちに摘むような取り組みを行うことが重要であり、女子学生の受けもいいのではと感じる。また、北九州市としては世帯年収を上げていきたいと考えており、学び続ける人材を増やすことは非常に重要なため、大学に期待している。
- 多くのことを実施し、パッションが伝わってくる。方針・中期計画があり、そして実行部隊として本部制がある中で、経営協議会委員として議論やアドバイスができるよう、それぞれの遂行状況と各本部にどのような課題があり、どのように進めたいかを示してもらいたい。

- 文科省による年度計画の廃止に対し、自らチェックする体制を作ったことは大変先進的だと感じている。また、非常に実務的でしっかりと進められている。  
本部制が本当に上手く機能しているかのチェックが必要。現在のポリシーでどこが間違っているかのヒントを掴みながら進めていただきたい。  
全体のプロセスの中で、どのようにクリエイティビティを出すかが課題だと考える。
- 全面的に評価している。学長就任時のビジョンが様々なかたちで着実に推進されている。リカレント・リスキリング、産官学の連携、人材ネットワーク、コンプライアンス、SDGs等いい方向に向かっている。ハラスメントの減少も評価している。
- エネルギーギッシュな活動状況だと感じている。その反面、相当な労力がかかっていると推察するが、それら労力について純増させたのか選択と集中をおこなったのかを伺いたい。  
→三谷学長：タスクフォースを組むことで隙間をうまく最適化させることに寄与していると考えている。また、外部資金の間接経費を活用することで人を増やすことはビジョンとして掲げており、実際にURA人材などを増員することで効率化、好循環ができています。一方負荷が増えている面もあるので、対応を検討したい。
- 知名度を上げるべく、九工大発の全国、アジアニュースの発信を継続してほしい。  
大学街になっていないと感じている。学食はずっと行列ができていますが、もっと捌けるようになるとよい。地元のお店も多くあるので、学外のカフェ等でも勉強できるなど、地元、隣組での連携をお願いしたい。  
女子学生の割合について、ある私立大学では、女子学生が過ごしやすいようトイレ環境等を整えたことによりお洒落な大学としてイメージを作り変えた事例がある。  
大学ランキングを上げることは国際的に提携する大学の質の向上に繋がるので、THE世界大学ランキング、QSランキング等への更なる対応を検討してはどうか。